

The Danube Quarterly

ドナウ通信

2005(平成17)年・夏季号



ハンガリー日本人会会報 / The Japanese Community Bulletin



July

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

August

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

September

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

Cover Illustration Copyright © 2005 by Inner Design Bt, Budapest
Photo copyright © 2005 by László Előd(front cover), Tamás Kármán(back cover)
Edited by Tsuneo Morita
Published by Japanese Community in Hungary

目次

特集 日系企業の現状

日系企業の投資状況

小林 孝雄

1

イビデン・ハンガリー

島戸 幸二

5

三洋エアコン・ハンガリー

西村 光弘

6

SEWS-AWH

萩原 壽夫

7

第一実業

小藺 大介

8

コトフキ

AGC Automotive Hungary Ltd.

川崎 雅弘

10

日本人学校

教員紹介（三代校長ほか）

11

児童作文

12

みどりの丘日本語補習校「報告」

杉本 康志

14

教員紹介

17

随
想

お昼が楽しみ、手弁当仲間

竹内 勝則

21

創
作

海外初旅行

岩井 孝博

24

ソフトボール大会報告

伊藤 幸広
盛田 常夫

28

ハンガリーのランニング事情

特集 日系企業の現状

日系企業の投資状況

ジェトロ・ブダペスト

小林 孝雄

順調に増える日系企業

今回のドナウ通信では、紹介が遅くなった企業もあるがほとんどはこの一年ばかりの間にハンガリー来られた日系企業である。五社のうち三社が自動車関連製造業であることから分かるように、ハンガリーにある日系企業は自動車関連が多く、とくに製造業の半分以上は自動車関連である。中東欧地域における自動車産業の急速な発展に対応し、日系企業はEU加盟後もハンガリーに自動車分野を中心に投資を拡大させているといえよう。これはハンガリーに限ったことではないが、中東欧地域

への欧米企業など外国企業の投資も自動車関連が盛んである。ハンガリーでは、このほかにも五月に日系タイヤメーカーが工場設立計画を発表している。

商業・サービスを含めハンガリーにある日系企業数（駐在員事務所等含む）は、ジェトロの調べによると、二〇〇〇年四月時点では合計八〇社（うち製造業二七社）であったが、二〇〇五年五月には一〇三社（うち、商業貿易四七社、製造業四二社）であり、着実に増加している。こうした背景から、日本人子弟も増えており、この四月には日本人学校が開校の運びとなった。

順調に日系企業が増えているのは確かであるが、これを周辺地域の国々と比較すると、増加ペースはハンガリーが高いわけではない。日系製造業の数でみると、二〇〇一年まではハンガリーがもつとも多かったのであるが、二〇〇二年にはチェコ

が同数となりハンガリーに追いつき、その後ハンガリーを抜いて中東欧地域でもつとも日系製造業の多い国となっている。ポーランドも二〇〇一年頃から日系製造業の数が急に増えており、二〇〇四年末には三六社とハンガリーの四一社に迫っている。また、賃金がより安いということでも日系企業の期待の高いルーマニア、さらにセルビア、ブルガリアあるいはウクライナにはまだまだ投資する企業は少ない。

なお、ハンガリーへの外国からの直接投資（企業などにより事業を営む）の金額（二〇〇三年までの残高）のもつとも多い国はドイツ（九七億ユーロ）で、続いてオランダ（六五億ユーロ）、オーストリア（三七億ユーロ）、米国（一七億ユーロ）と欧米が上位で、欧米以外では日本が投資残高最も大きく六億ユーロ、全体では一番目である。

自動車・電機以外にも参入

最近の新規日系企業の特徴としては、自動車製造関連ばかりでなく、企業紹介にもみられるとおり、空調機販売会社、スタジアム椅子製造のほか機械機器の販売促進に向けた駐在員事務所設立などいろいろな分野への参入がみられることである。実際、機械機器や部品販売のための販売店や駐在員事務所設立に関する相談は増えている。背景には、自動車始め機械産業の成長を見据え、機械設備や部品・材料の供給体制とサービスを充実させたいとの意図がある。

また、昨年は、即席めんの生産も始まり、印刷用ゴム版製造企業も参入している。即席めん以外にも日本食品の販売拡大に関心をみせる企業はあり、当地であられ類の製造を始めた日系の方もいる。

事業上の課題

中東欧諸国に進出した日系製造業

にとつての課題は、必ずしもハンガリーだけではないが、コスト増の要因でもある高い税・社会負担あるいは賃金上昇への対応、人材確保、複雑な行政手続や変更の多い法規制への対応、現地調達引上げなどである。

③ 加盟による通関手続き廃止により部品・材料のグローバル調達が容易になり、ハンガリーでの調達率引上げに以前ほど留意する必要がないとの声も聞かれるが、近場で調達ができれば越したことはない。

労働コスト上昇は二〇〇四年以降抑制傾向にあるが、外資系企業の新規進出や事業拡張により地域によつては人材不足に直面し、周辺諸国から労働者を雇用する企業もある。高速道路網が整備されつつある北部や東部などは労働力も豊富で、賃金も安く、生活には不便だが今後の投資先としては一考に値しよう。

もちろん、こうした問題は日系企業に限ったことではなく、他の

外資系企業でも同様といえる。例えば、ハンガリーに進出している欧州多国籍企業で構成するハンガリー欧州ビジネス協議会（HEBC）は二〇〇四年七月、「競争力ある欧州における競争力あるハンガリーのために」と題する報告書を発表した。投資環境を改善するため、^a 付加価値税など税負担の軽減、^b 競争力を向上するための長期計画の策定、^c 投資誘致に関するワンストップ制度導入、^d 職業訓練の強化――など多くの提言を行っている。また、行政・司法面では、各種手続きに時間がかかること、判断に矛盾があることなどを指摘している。

ハンガリー政府はこうした問題の改善も含め、現在税制改革を検討、また、一〇〇の経済社会対策を実施しようとしており、実効が期待される。

高付加価値分野やサービス業への投資の可能性

ジュルチャーニ首相およびコーカ
経済・運輸相は、今後の経済社会発
展の牽引分野として高速道路整備な
どインフラ開発、運輸・物流開発、
IT・バイオなどハイテク産業、自動
車、環境保護、ヘルスケア、観光な
どをあげている。首相は二〇〇七
二〇一三年国家開発計画でこうした
分野を発展させ、計画が終わるころ
にはハンガリー国民の賃金がEU諸
国平均の七五％に到達、さらにその
後一〇年で九〇％レベルまで高まる
ことへの希望、また、就業率をEU
平均レベルに引き上げたい旨表明し
ている。

これからも分かるとおり、賃金は
先進EU諸国よりも早いペースで上
昇するものと予想される。よって、
人件費等コストが上昇しても採算の
合うよう自動化やコスト削減、ある
いはより付加価値の高い事業や成長

性の高い事業分野への取り組みが必
要となつてこよう。

もつとも、中国での反日運動もあり、
欧州での新たな生産地域として中東
欧はより注目を浴びつつある。また、
ドイツなどと比べれば賃金も含め事
業コストはまだまだ安く、自動車始
め機械分野などで技術力ある日系製
造業の進出は続くであろうし、実際
投資調査に来訪する企業は多い。ま
た、個々の製品に組み込むソフトウ
ェアなどのハンガリーでの開発の交
渉に来る企業や大学・研究所との研
究開発に関心を示す企業も出てきて
いる。南東欧地域も将来の視野に入
れ、中東欧地域での販売拠点作りな
ど、製造業以外での日系企業の投資
も期待したいところである。

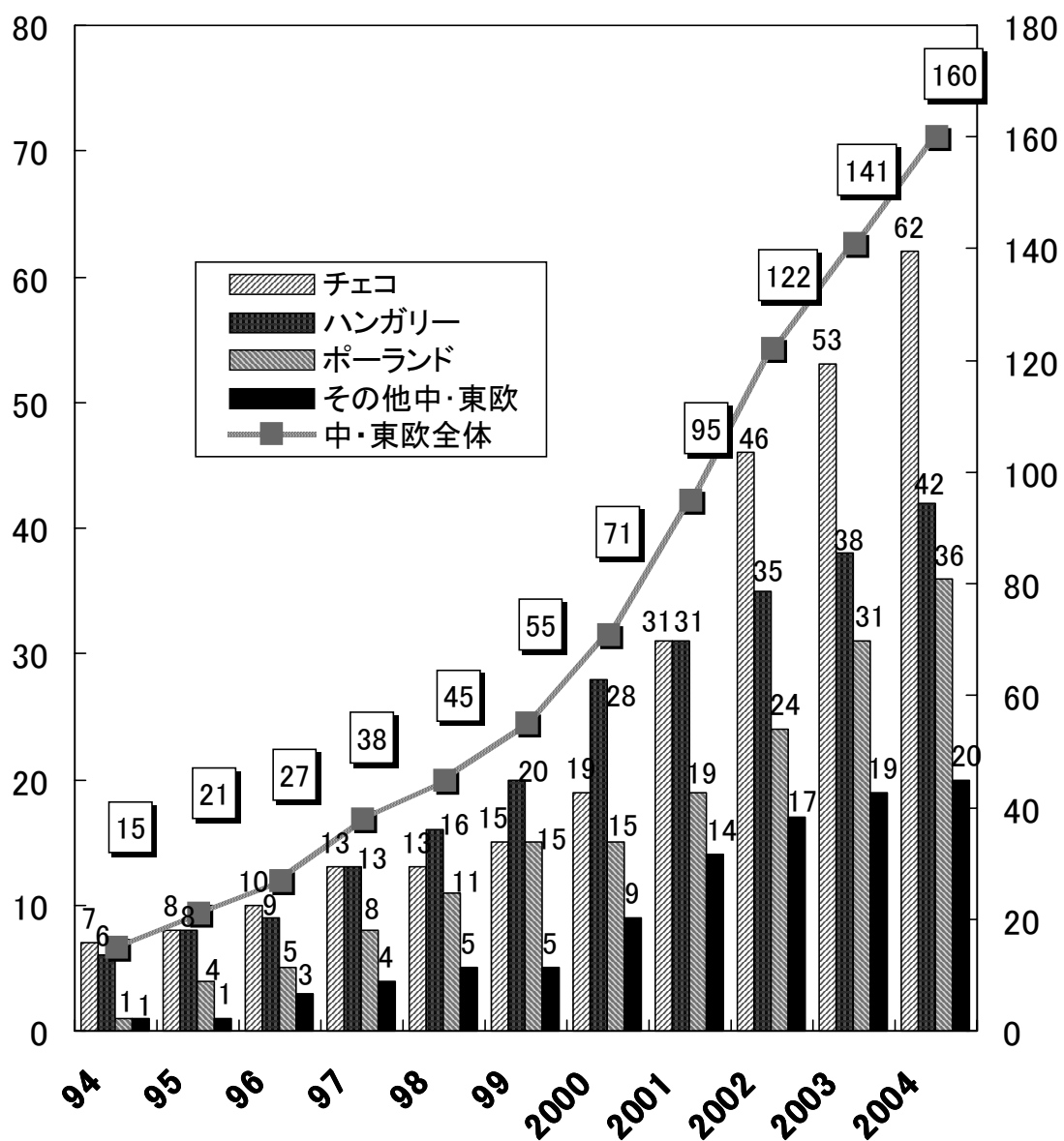


在中・東欧日系製造業数の推移

< 左軸：個別数値（棒グラフ），右軸：中・東欧全体（折れ線グラフ） >

（単位：社）

各年（暦年）末時点での所在数



（出所：日本貿易振興機構・ジェトロ調査）

会社紹介

イビデン・ハンガリー

島戸 幸二

イビデン株式会社は、一九一二年に設立され、現在、携帯電話・パソコンなどの高機能プリント配線基板、

CPU用パッケージ基板、自動車用セラミック部品、半導体・高温耐熱用特殊炭素材料が主要な製品として製造販売する日本の岐阜県大垣市に本社が所在する会社です。生産販売拠点は、すでに米国、中国、東南アジア、欧州の世界各地にあり、主要関連会社の従業員は約八〇〇〇名です。

近年、環境浄化へのイデオロギ―はますます高まり、自動車の排気ガス規制も、より厳しくなっております。イビデン株式会社は、こうした

将来の需要に応えるセラミックフィルターの開発を一九八〇年代末から開始し、自動車用のセラミックフィルタ―としての実用化に成功しました。多孔質炭化珪素と高熱衝撃吸収を可能とした特殊な構造が特徴です。二〇〇〇年には、フランスの量産車に採用され、すでに一〇〇万台以上が欧州で走行、環境浄化に寄与しています。

イビデン・ハンガリー（IBIDEN HUNGARY KFT.）は、上記セラミックフィルタ―を製造する会社として、二〇〇四年六月にハンガリー共和国に設立されました。首都ブタペストの南、約二五kmに位置するドナウーシャニー（Dunavarsány）市の工業団地内に約一億ユーロを投じて工場を建設し、二〇〇五年八月には量産を開始する予定です。操業開始時の従業員数は三〇〇名、フル操業時には、約七〇〇名の従業員となります。

欧州の環境浄化に貢献する環境浄

化用セラミックフィルタ―を生産すること、雇用の創出は無論、技術移転、人材育成をすすめる、地域ならびにハンガリー共和国の経済発展に寄与し、さらには、日本、ハンガリーの文化交流や、将来のハンガリーの環境浄化にも寄与することを切望しています。



SANYO Airconditioners Europe Srl.
Magyarorsagi Fioltelepe

西村 光弘

今年一月より、ブダペスト市内ドナウ川の七つの橋の内最南端に在る「ラジヨマニヨシ橋」袂の Infopark 内に新たに事務所を構え、営業活動を開始致しました。

当社は、欧州地域における三洋ブランドのエアコン販売を担当しており、今日では家庭用小型機器から業務用大型空調システムまで五〇〇機種以上に及ぶ幅広い商品を、全欧州三〇ヶ国に販売・営業活動を展開しています。本社は、イタリア・ミラノに在り、英国とスペインにそれぞれ支店を持っております。当地ハンガリー支店が三番目となります。従業員は、全社で八〇名、その内ハンガリー支店は五名（日本人一名、ハンガリー人四名）。

当社が営業拠点としてハンガリーに決定したのは、地理的に中東欧の中心であることに加え、近年経済的に大きく発展し、昨年EUに加盟し欧州の中でも増々重要な役割を果たす可能性が大きいこと、そして政治・経済・文化いずれの分野においても日本と良好な関係にあることなど、多くのメリットがあるからです。

また、三洋グループでは、環境意識の高い欧州で、今後エナジー＆エコロジー事業に力を入れていく方針を決定しています。エナジー＆エコロジー製品とは、地球環境の保全と快適な暮らしの両立を目指して、環境負荷の少ないソリューションを提案する製品です。三洋グループでは、既にドログ市（ブダペスト北北西四〇km）にバッテリー工場を設立・稼動中ですが、今年新たに同敷地内にソーラーパネル及びエアコン工場を設立、それぞれの商品の生産も開始致します。欧州でのエナジー＆エ

コロジー分野の商品を供給するための統合生産拠点として拡張・強化するものですが、当社はマーケティング・販売・流通面で協力を計り、グループ製販が一体となり事業を積極的に推進していく計画です。

欧州での空調機器の需要は確実に伸びています。昨年は冷夏で市場では停滞気味でしたが、幸いにも三洋は、一昨年に比べ大きく伸ばすことができました。エアコンはもはや贅沢品ではなく、日常普及品の一つになってきています。環境意識の高い市場性をも考慮し、我々としては、環境保全に配慮した新冷媒対応モデルや省エネルギー・高効率型商品であるDCインバーター機器の導入に最も力を入れていきます。

三洋グループがこれまで培ってきた技術・ノウハウを活かし、ハンガリー市場のニーズを的確に捉えながら、共に発展できる様推進していきたいと思えます。

SEWS

Automotive Wire Hungary Ltd.

萩原 壽夫

当社(略称 SEWS-AWH)は、住友電気工業株式会社(SEI)及び住友電装株式会社(SWS)により二〇〇三年六月に設立されました。出資母体は Sumitomo Electric Wiring Systems (Europe) Ltd.(略称 SEWS-E)と、この会社は SEI 及び SWS 共同出資で設立されました。

所在地は Komárom-Esztergom Megye にある Kisber の工業団地で、ワイヤーハーネスに使用される電線を製造し、主に SEWS-E 配下の自動車用ワイヤーハーネス工場に供給することを目的としています。ワイヤーハーネス工場はポーランド、スロバキア、ルーマニアにあり、またハンガリーに於いて自動車用ワイヤーハーネスの製造を行っている。 SEWS Hungary

Ltd.にも電線を供給致しています。

当社は、環境に優しいとされるハロゲンフリー絶縁電線を欧州に於いて供給する事業を展開しています。従来から使用されてきた PVC 絶縁電線も製造しており、欧州にも多数のメーカーが存在しますが、ハロゲンフリー絶縁電線を量産できるのは SEWS-AWH だけであります。

自動車用ワイヤーハーネスに使用される電線の絶縁体として、長い間、塩化ビニル(PVC)が使用されてきました。PVC は現在でも、安価、性能改善が容易、加工性が極めて良いなどの理由で、大量に使用されています。しかし、PVC はその分子の中に塩素(ハロゲン系元素のひとつ)を含んでおり、この塩素により PVC 自体が難燃性を有する代わりに、燃えた時には水素と結合して塩化水素を形成して焼却炉の内壁を損傷したり、金属や電気接点を腐食したりするなどの障害を引き起こす原因となります。

これに対しハロゲンフリー絶縁体はプラスチックの分子中に全くハロゲン系元素を含まず、仮に燃焼したとしても非常にクリーンに燃えたとされています。ハロゲンフリー絶縁体が燃焼した際には一酸化炭素や二酸化炭素が水と同時に生成されますが、こういった化合物はどの様なものを燃やしても生成されるものであり、この意味で非常にクリーンに燃えろと言えろるものです。自動車用ワイヤーハーネスに使用される電線の被覆としては更に難燃性が要求されており、ハロゲン系元素を含まない難燃剤を添加することにより、燃え難く、燃えてもクリーンに燃える絶縁体となっています。

SEWS-AWH は自動車用ハロゲンフリー絶縁電線の製造によって自動車の環境負荷低減の一翼を担い、ポーランドやスロバキア、ルーマニアへの輸出を通して、ハンガリー経済の発展に寄与できればと願っています。

Daichi Jitsugyo Co Ltd Budapest Office

小 菌 大 介

弊社は 東京に本社を持つ 東京証券取引所一部上場の機械専門商社であります。

この度 ハンガリー地区における日系企業並びに現地企業のお客様への製造設備の販売・サービスを目的として本年五月一日にブダペスト市内に支店事務所を開設致しました。

欧州地区は ロンドン支店を欧州拠点として フラクフルト事務所ブラハ事務所 ブダペスト事務所の四拠点を構えております。

ブダペスト事務所は 日本人駐在員一名 現地人スタッフ二名・日本人技術者契約社員一名の計四名の陣容となっております。ハンガリー人スタッフは 英語・ドイツ語・日本語・ロシア語各言語が使えるメン

バーを揃えております。また、契約社員として、海外工場立上げ経験が豊富な日本人技術者一名を現在ハンガリーに配置しております

現在 お世話になっている日系ユーザー様の設備立上げ支援のため現場第一主義で動いております。

取扱商品は 弊社取り扱い製造設備を中心に 欧米製・日本製・ハンガリー製の広範囲にわたる調達を最適な形でお客様に提供出来る トータルコーディネーターを目指しております。

また 特定の商品については メーカーの代行として ハンガリー地区並びにルーマニア地区の拡販を進めております。

今後 設備関連において 何かテーマを頂戴出来れば馳せ参じますので 宜しくお願い申し上げます。

コトブキ

一九一六年（大正五年）“快適な公共施設の創造”を精神に、コトブキ創業の一步が刻まれました。まもなく「イスのコトブキ」として全国に知られ、さらなる前進への礎となつて今に継がれています。

本格的な公共施設用家具の製造販売は、コトブキが開発した劇場用連結椅子を東京帝国大学安田講堂や日比谷公会堂に納入した一九二五年にさかのぼります。そして東京オリンピック、最近では、FIFAワールドカップなど日本で開催されたビッグイベントの各施設に多数のコトブキの製品が納入されています。

つまり大正、昭和、平成の各時代におけるコトブキの歩みは、日本の公共施設の進化と共に有ります。コトブキは、“Needs and Research”

“ Plan and Design” Manufacturing,
という三つのメイン・ストラク
チャーの連携によって、独自の総合
力を発揮して製品を開発してきまし
た。

世界最高品質を求める日本の市場
で育まれたコトブキの製品は、伝統
と文化の発祥の地である欧州でその
名を知られるさまざまな施設で活躍
していると共に、コトブキの総合力
は、米国と英国のグループ会社でも
その真価を発揮しています。年々増
える欧州の著名な公共施設からの引
き合いに応えるべく、コトブキは、
E.U.圏で生産することを目標にハン
ガリーへ進出することとしました。
コトブキグループは、すでにハン
ガリー国内に多数の部品供給会社の
ネットワークを持ち、西欧への道路
網も整備されていることが進出先選
定の決め手になりました。また、ハン
ガリーが多くくのノーベル賞受賞者
を輩出している点にも注目しました。

納入される施設の要求は、千差万別。
これに応える卓越したデザインワー
クがコトブキたる所以です。世界ブ
ランドであるコトブキ製品の品質と
技術を支えているのは、やはり優秀
な人材です。

これらの要素を総合的に評価して、
ブタペストから五〇km東南東に位
置した Monor を選定しました。M5
にも近く、欧州への出荷拠点として
大いに期待しています。

さて、前記の通り、コトブキは、す
でにハンガリー国内に多数の部品供
給会社と取引がありますが、まだま
だ同国の情勢や商習慣にも不慣れで
あることは間違い有りません。既に
進出されている先輩企業様や JETRO
様のご指援助ご鞭撻を賜ることが多々
あると存じます。

最後になりますが、コトブキグル
ープが納入した欧州の案件をご紹介
します。
もし機会がございましたらお訪ね下

さい。

Fónix Sports Hall (ハンガリー デブ
レツェン)

Edinburgh Festival Theatre (英国)

Royal Albert Hall (英国)

Glyndebourne Opera House (英国)

Water Front Hall (英国)

London Arena (英国)

Hartwall Arena (フィンランド)



川崎 雅弘

当社は自動車用ガラスを生産・販売する会社として、昨年七月タタバニヤ市・クーニエ工業団地内に設立されました。現在、建設工事中で、来年一月からの生産開始のため設備の据付・試運転の準備をしています。旭硝子が一〇〇%出資しており、現在従業員三五名、内日本人派遣員六名で運営しています。

旭硝子はガラス（板ガラス・自動車ガラス）、電子・ディスプレイ（TVブラウン管用ガラス、FDPガラス他）、化学品を主要な事業分野としています。なじみが薄い分野が多いかもしれませんが、ドイツワールドカップの開催試合が行われるミュンヘンのアリアンツアリーナスタジアムのドームも旭硝子の製品（フッ素樹脂アフレックス）です。

欧州においては、一九八一年にベルギーのグラバーベル社の買収を通じて事業拠点を確保し、その後、同社を基軸として、西欧内の工場の拡大、チェコ、ロシアへと展開して参りました。今回のハンガリーの工場は、自動車用ガラスの工場としては、六カ国目の工場で、成長の著しい中東欧での増加する新車需要に対応するとともに、最新鋭の技術と高い品質で欧州内でポジションを高め、全世界のお客様に同一品質の商品・同一サービスを提供することを目標としています。

当社は、現在世界二カ国に展開し、約五万人が「AGCグループ」の従業員として働いています。これら全世界の従業員が共通の価値を共有することを目指して、グループビジョン「Look Beyond」を掲げ、次の四つの価値観を共有し、「高収益・高成長のグローバル優良企業」になることを目指しています。

（一）イノベーション&オペレーション・エクセレンス【革新と卓越】
常に革新的な技術・製品・サービス、ビジネスのあり方、人材活用を追求します。

（二）ダイバーシティ【多様性】
多様な文化、能力、個性を持った個々人を尊重し、国籍、性別、経歴にこだわらないグローバルな経営を展開します。

（三）エンバイロメント【環境】
自然との調和を目指し、善き地球市民として、持続可能な社会に貢献する責任を担います。

（四）インテグリティ【誠実】
高い倫理観に基づき、あらゆる関係者と透明・公正な関係を築きます。



日本人学校

日本人学校教員紹介

三代 喜政校長

神話の国出雲、島根県松江市からやってきました。学校ではカメラを持って歩く姿しか子どもには印象がないかもしれません。学校便り「元氣通信」のネタを探しに、教室に突然姿を見せます。日々成長していく子どもたちの様子を毎日楽しみに眺めています。よろしくお願いします。

加茂 博行教頭

中学二年担任の加茂です。出身は宮城県で国語が専門です。おかげさまで、今年が三年目となりました。日本人学校設立が現実となり、そこで教鞭をとれることが、夢のようです。よろしくお願いします。

大島 秀之

中学部一年担任の大島です。出身は埼玉県で数学が専門です。今年開

校したブダペスト日本人学校、世界に誇れる学校になれるよう、努力をして行きたいと思えますので、ご支援ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

佐藤 絵里

小学部一年担任の佐藤です。「宮沢賢治の里」岩手県花巻市の出身です。

美しい町並みの中で、かわいい日本人学校の子どもたちと学習できることをとてもうれしく思います。私もブダペスト一年生です。よろしくお願いします。

辻 太久郎

今年度、千葉県より参りました辻です。担当は小四国語、中学部英語、小学部英会話です。中学生時代、海外子女として日本人学校でお世話になった私が、今こうして恩返しのお機会を与えられたことに運命を感じています。

飯川 浩二

小学部六年の担任をしています。今年四月、東京都から派遣されました。

一、四年の体育、四年社会、五年理科と小学部全学年と関われる貴重な経験をさせていただいています。よろしくお願いいたします。

仲川 寿一

小学校五年生担任の仲川です。ハングリーにきて十二年になります。補習校時代からお世話になっていきます。日本人学校になって、新たな気持ちで子供たちの教育に携わっていきたいと思います。よろしく願いいたします。

島田 英児

小学三年生の担任をしています。出身は「みかん」と「道後温泉」で有名な愛媛県松山市です。正岡子規をはじめとする有名な俳人を生み出した街です。

今年から新設された日本人学校で教鞭を取らせて頂くことへの深い感謝と意義深さを改めて感じています。どうぞよろしくお願い致します。

坂井 圭子

ハンガリーでの生活は十年となりました。「行かないで」と泣き叫ぶわが子二人、「おはようございます」と元気なあいさつで迎えてくれる生徒たち。そんな毎日、「笑顔を忘れずに」をモットーに全学年の音楽、他教科の指導に挑んでおります。

日原 美由紀

小学部二年担任の日原美由紀です。一〇年ほど前、今教壇に立っているこの教室で、私はハンガリーの子どもたちに日本語を教えていました。現在は、同じ教室で子どもたちにハンガリー語を教えています。よろしくお願いします。

児童作文

ロバにさわったよ

二年 木村 航

ロバにさわろうとしたとき、きちょうしてた。けど、おとなしかった。だからさわれた。さわったとき、ロバはしっぽをふっていた。ぼくは、おもった。たぶん、うれしいとおもった。草をたべさせようとおもったから、たべなかった。ぼくは、おもった。この草はにがてだとおもった。

いっぱい歩いたよ

二年 八代 美来

わたしは、あつい中をとてもがんばって歩いたと思います。でもハリネズミやふくろうやいっぱいどうぶつを見られたと思います。でも、すごどうぶつを見られてうれしかったです。だけど、じかんがなくなってしまう、見たかったし、かやいのししは見られなかったです。一ばん見たか

ったスカンクはじかんがなかったんじやありません。どこにいるのかわからなくておくにいつてみると大きな森に入ってしまった。こわかったです。もうすぐじかんなので森から出ました。それで、見たかったどうぶつが見られなかったです。とても、かなしかったです。

子ども電車

三年 鬼丸 祐輔

きのうは日本人学校のはじめての遠足でした。ぼくが一番いんしょうにのこったのは、子ども電車です。子ども電車からは森林や遠くの町が見えました。また、ふく風も気持ちよかったです。子ども電車では中学三年生ぐらいの子がはたらいていました。男の子や女の子がキップを切ったり出発の合図をだしていました。「なんで日本の学校はやっていないのにハンガリーは学校から選ばれて子ども電車にのっているのかなあ。」と思いました。

せいふくもあるみたいで、みんな同じふくを着ていました。

それから少し歩いてヴァダシユパルクに着きました。その中で何びきも毛虫を見ました。ぼくは毛虫が大きらいなのですが、その日はすごくあつくて毛虫なんか気にしませんでした。

また、子ども電車にのりたいです。

六年生として

六年 島戸 美月

「あー涼しー。」

私の横を冷たい風が横切る。今までとても暑かったのに、電車が動き出すとともに私の気持ちは天国……。なんて考える暇はない。私は終わりの言葉を言わなければいけないのだ。しかも暗記で。思いでも言わなければいけない……。それに私は班長の仕事もある。班のみんなをまとめなければいけない。

そんなことばかり考えていたら、遠足は楽しくないに決まっている。でもこれが六年生。頑張らなきゃ。

やっと小動物園についた。小動物園にカラスがいて、わざわざ動物園でカラスを飼うことはないだろうと思った。でも、ハンガリーでは珍しいのかもしれない。他にも、ハリネズミや、イノシシの子ども、小鹿などがいた。かわいかった。

帰り道、私は終わりの言葉のことをそんなに考えていなかった。思い出もたくさんできたし、もう暗記をして言えるようになっていたから。班長の仕事も、みんなをちゃんとまとめることができたし、班の中心となつて行動することができた。

終わりの言葉がどうだったって？それは大きな声で言うことができたし、失敗をせずに言うことができた。

夏季合宿でも、みんな楽しく過ごせたらいいです。

あっちー

中一 堀部 和加奈

「あっちー」

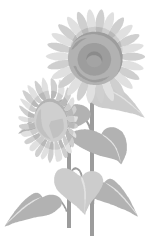
五月末だというのに真夏のような

暑さの中で日本人学校初めての遠足が行われました。

朝からうだるような暑さで子供電車に着いたころ、私はすでにぐったりとしていました。というのもこの縦割り半の小さい子供たちに引っぱられたり、しがみつかれたりしたからです。

でも子供電車が森林の中をかけぬけ始めると、風が心地よく感じられました。木々の間を通ってきた風が私に安らぎをくれたようです。

窓がない開放的な車内からは、森の美しい景色がよく見えました。森の木々たちは太陽に照らされながらも風に吹かれて気持ちよさそうでした。その気の影の所々に光が漏れていました。こんなに美しいものが身近にあることに気づかされました。日本人学校始めての遠足。地図を見ればほんの小さな旅だけど、私が知らなかったたくさんのことに気づくことができました。



みどりの丘日本語補習校

ご報告

運営委員長 杉本 康志

四月二日。冬の間には枝ばかりだった木々が芽吹きだし、生命の息吹を街中に感じることができるようになった頃、「みどりの丘日本語補習校」は開校しました。

「はい！」「はい！」

開校式では、一人一人子どもの名前を呼び、起立して返事をしてもらいました。さすがに上級生にもなると慣れたものでしたが、新一年生は恥ずかしがる子もいて、こちらも少しハラハラしました。それでも、たとえ小さな声であっても、立ち方がどうもしゃきつとしていなくても、一生懸命返事をする子どもたちを見

て、開校した喜びを噛みしめることができました。

一学期は、講師の先生方にとっても運営委員会にとっても試行錯誤の連続でした。新年度を迎えることは、先生も児童も新たな環境に置かれるという事ですが、全日制のように毎日授業があり、毎日顔をあわせるのであれば、授業中の細かなルールであるとか、学習態度を徹底的に身につけさせることはそれほど長い時間を必要としないのかもしれませんが、一方、当校の授業は一週間に一度、しかも国語のみの三時間です。先生方はまず学習態度を身につけさせるために、相当苦勞されていると思います。

ご承知のように現地の学校は九月にスタートするため、特に新一年生のクラスは、「学校生活自体が初めて」という子どもばかりで、三時間ずっと座り続け、集中して勉強すること覚えさせる苦勞は計り知れな

いものがあります。

また、一週間に一度しか授業がないということは、一回子どもが休めば、二週間空いてしまうことを意味しますが、これも先生方にとっては頭痛の種であると想像します。国語能力の向上を考えるとならば、一週間に一度の授業では到底足りないわけで、そのためにも保護者の方々には、機会のあるごとに繰り返し家庭での学習が重要であることを伝えていきます。

一方、運営委員会にとっても、一学期は予想以上に教科書と副教材の発注で手こずりました。それは、子どもの在留届が提出されていなかったり（保護者は当地で出産した場合、「出生届」を提出していれば児童的に在留届も提出していると思われる）と理解していた方々がほとんどでした（途中入学者がいたり、といったことがあったためです。また、日本の発送者が業者名になっていたた

めに、関税をかけられそうになる、といった事態も起きました。(掛け合った結果、関税を追徴されるのは免れました)

しかし、試行錯誤の中でも、励まされることも沢山ありました。当校の名称を決める際、子どもたちに案を出してもらったのですが、その中に「たのしい学校」というのがありました。結局、字のごとく緑に囲まれた場所柄を考慮し、また日本語で補習を行う学校ということで「みどりの丘日本語補習校」を採択しましたが、嬉しい提案でした。

講師の先生方は、忍耐と愛情を持って子どもたちと接し、一学期を終える頃には、少しずつ学級運営が軌道に乗り始めた旨の報告も受けました。一方、全日制日本人学校の先生方には当校の研修会に参加していただくと同時に、授業参観の機会も与えていただきました。

また、運営委員会とは別に、学校の運営等について助言を得るため、顧問に盛田常夫氏(ハンガリー立山研究所取締役社長)と小松慶子さん(教育カウンセラー)に就任していただきました。

日本人商工会様よりは、教室賃借料の補助として、六月に寄付の決定をしていただきました。既に当校は受益者負担の原則で経営をしておりますが、初年度は予想外の出費が積み重なることもあり得るため、こうした補助は運営を安心して行う上で非常に心強いものとなります。また、現在、「節約、節約」のみで、必要最低限に抑えている分野についても、改善を図ることが可能となります。なお、当校は現在非営利の協会としての法人登録申請の準備を進めており、早ければ九月には正式な申請を行う予定です。設立後は、協会が経営母体となります。

最後に、一学期を通して感じたことは「学校とは生き物」ということです。例えば教科書の発注の件は、言ってみれば「事務的」な問題なので、一度軌道に乗ればこれまでのような時間も労力も必要ではなくなるでしょう。しかし、学校運営で最も難しいのは、こうした事務的な事柄の処理よりも、どのようにして児童に楽しく通学してもらい、学力の向上を図り、学校の質を高めていくか、ということなのです。そのためには、運営委員会と先生方、保護者がうまく噛みあって協力できることが大前提だと思います。当校という生き物も、この協力がうまく回っていくよう、二学期以降も努力して参りたいと思います。



みどりの丘日本語補習校 概要

所在地	ブダペスト市2区 トウルクベース小学校内 (1025 Budapest, Törökvész út 67-69)
代表者	杉本 康志 (運営委員会委員長)
授業日・時間	毎週土曜日 (年間39日) 9時～12時 1学期 2005年 4月2日～6月11日 2学期 2005年 9月3日～12月17日 3学期 2006年 1月7日～3月25日
教科	国語 (在外教育施設使用の教科書)
対象者	4月1日現在満6歳以上で、日本国籍を有する者。他国籍者は既に日本語の知識があり、日本語で国語の授業が受けられる者に限り認める。
生徒数	18名 (2005年6月現在)
講師数	3名 (プラス補助1名)
問合せ先	電子メール: hunijuu-owner@yahoogroups.jp

沿革

2004年10月 「新補習校」(仮称)準備委員会が発足

2005年3月 ブダペスト日本人補習校が閉校、全日制に移行

2005年4月 当校開校

2005年6月 名称を「みどりの丘日本語補習校」に決定

(開校に至る経緯の詳細については、「ドナウ通信」2005年春号をご参照ください)

運営母体

現在当地において、非営利の協会として法人登録申請の準備を進めています。協会が正式に発足されるまでは、学校の代表及び日々の運営は、運営委員会が行います。

委員長: 杉本康志 副委員長: 近藤直子、甘利幸子

会計: 茂木和子、オロス・ジュジャンナ

講師連絡: 山内寿恵 保護者・生徒連絡: ラパイ里美

* * * * *

顧問: 盛田常夫、小松慶子 法人化担当: 近藤直子、ラパイ・ティボール

日本語補習校教員紹介

知念 まり（三年生担当）

そもそも私がハンガリーに来たのは、合唱指揮の勉強をするためでした。オウム返しに歌わせ、読譜の「ど」の字も出てこないような日本の音楽教育、流行歌ばかりの音楽の教科書。そういった日本の音楽教育に馴染めなかった私は、少しでも質のよい音楽を子どもたちに教えたく、音楽教師を目指していたのでした。

そして、学校という現場で一番有効なのは、みんなが同じラインに立っていて、誰もができ、お金もかからない「合唱」だ、という結論に達し、それなら合唱指導を極めようではないか、ということまで冒頭につながるわけです。

二年間みっちり勉強し、本来なら今ごろ日本のどこかで教壇に立って

いるはずだったのですが、人生何が起るかわかりませんね。よほど居心地がよかったのでしょうか、気が付いたらハンガリーに住み着いていました。

しかし、ハンガリーにいても、子どもたちと関わっていたい、何か教えた、という夢は諦められません。何かいい方法はないだろうかと考えていたところに、ちょうどこの新しい学校の話が飛び込んできました。これはまさしく神のお告げ、こんないい話を逃すわけにはいかない、何としてでもやらせて欲しい、と鼻息を荒くし応募したのでした。

* * *

こうして始まった私の教員生活（と大袈裟に言ったところで、週に一回しかないのに変わりはありません）は、試行錯誤の連続です。何

しろもともと専門は音楽教育。いくら学生時代に国語が得意で家庭教師をしていたと言っても、所詮持っている知識は受験対策用のものばかり。まさか小学生相手に、古文の助動詞接続暗記法を教えわけにはいきません。

さてどうしたものかと、とりあえず教科書と指導案と睨めっこし、一時間の授業のために五時間ほどの準備時間を費やし、初日に臨んだのでした。その甲斐あってか初日はまずまず成功。子どもたちもよく集中し、つたない私の授業を一生懸命聞いてくれました。

これに気をよくした私でしたが、その後問題が続出。せっかく準備していった授業が、新・旧教科書の違いからできなかつたり（最初の三週間、私の手元には古い教科書しかなく、一方子どもたちには新しい教科書が行き渡っていました）、この問題なら

子どもたちは五分でできるだろうと予想していたものが、実際には二十分かってしまい、その後に予定していたことが全くできなくなってしまうたり、こちらが知ってるだろうと思っていた言葉を子どもたちは知らなかったり、逆に知らないだろうと思っていたものを知っていたり・・・などなのです。

例えば、「蒸発する」という言葉が出てきた時のことです。私はどうしたら子どもたちにわかりやすく説明できるだろうかを考え、たくさんの例を自分の引き出しに入れてその授業に行きました。ところがいざ質問すると、子どもたちから「そんなの知ってるよ。水溜まりの水が空気に溶け込んでなくなっちゃうことですよ。」と、答えが返ってきたのです。他の例もあります。「庭」という漢字を習った時、私はその新しい字を使って「校庭」と書きました。すると、すぐさま子どもたちから「校庭って

何？」と質問が飛び出しました。私に通っていた小学校では、「放課（名古屋弁で休み時間のこと）は校庭で遊びましょう」と毎時間のように言われていたのですが、一年生でも知っていたのですが、みなさんが子どもの頃はいかがでしたか？

うれしい誤算もありました。一度読み聞かせの時間を取ったことがあります。本は「ごんぎつね」を選びました。読むと二十五分ほどあります。二十五分じっと黙って聞いているのはつらいかな、集中力が持つか、と心配したのですが、全員が最後まで姿勢を崩すことすらなく、しっかりと集中して聞いてくれました。

* * *

正直に言うと、一学期がもう少し長ければいいのにな、というのが本音です。ようやく子どもたちのテンポを把握し、子どもたちも私のルー

ル・方法に慣れ、これからはスムーズに進むだろう、というところでした。しかし残念ながらここで夏休み。九月になったらもう一度、一から始めなければならぬかもしれません。夏休みの間に子どもたちが忘れないでくれればいいのですが、その確率はそれほど高くはないでしょう。休みの間、子どもたちにはしっかりと遊び、たくさんの本を読み、そして一日十分でも十五分でもいいので毎日国語に触れて欲しいなあ、と思っています。九月に、一回り大きくなり、楽しい思い出をたくさん持った子どもたちにも会えることを楽しみにしています。



宮城幸恵（一年生担当）

この春より、一年生の担任となりました宮城幸恵と申します。日本では三年間保育士として働き、一昨年の秋ハンガリーへ幼児教育を勉強するために参りました。かわいく元気いっぱいの子どもたちと楽しい国語の授業ができるよう、はりきっています！

* * *

授業は、一年生の教科書に添って、読み、書き、短作文作りなどを勉強していますが、授業の息抜きに、毎回昔話などの絵本の読み聞かせをしたり、日本のわらべ歌で遊ぶ時間も作っています。

入学式の際はみんなコチコチに緊張し、中には部屋にも入ってこられなかった子がいましたが、今では、子どもたちの表情がフワアと明るくなったのを感じています。授業中も率先して嬉しそうに手を上げて答え

たり、休み時間も思いっきり遊べるようになって、私もひとまず安心！毎週土曜日を楽しみに学校に来てもらえたら嬉しいです！

ここで一学期にやったことをご紹介します。

A・教科書：あいうえおのよみ方書き方、「」の使い方、「っ」の発音のし方、長く伸ばす言葉、「は」「を」「へ」の使い方、「や、よ、ゆ」の読み方使い方。「おむすびころりんミニ劇場」

B・わらべ歌：「ちゅうりっぷしやありつぷ」「こんこんちきちん」など、日本のわらべ歌の心地よいリズムとおもしろい言葉で、楽しく遊びました。

C・昔話：「したきりすずめ」「鶴の恩返し」「てんぐだいこ」「ももたろう」「さるかにがっせん」など、

二時間目の始まりには、いつも絵本を読む時間をつくっています。子どもたちの真剣に絵本に見入る瞳が、きらきらしています。日本の昔話に親しんでももらえたら嬉しいです。

* * *

運営委員会の方々、保護者の方々、様々な面で力になってくださり本当にありがとうございます。二学期、三学期からは、いよいよ漢字も新出してきます！アイデアをひねり、より分かりやすく楽しい授業ができるようにしていきたいと思っていますので、これからご協力の方よろしくお願いいたします。

趣味… スキー、料理、細かい物作り
好きなハンガリー料理… ジャガイモ重ね焼き

ゲトライひろみ(四、六年生担当)

アメリカで知り合った主人と結婚の手続きと家族への顔合わせという事で、約一年前に来たのですが、最終的にハンガリーでの長期滞在を決めた事から私のハンガリー生活が始まりました。

教員募集に応募したのは、アメリカで学生だった時、現地の中学校で放課後の補習講師や、大学で日本語学科の教授の助手などを経験し、ハンガリーでもまたそんな経験が出来たらと思ったからです。

驚いた事・感動した事

大人では思いつかない子供ならではの発想を聞かされた時や、子供の視点からしか見えない物事に気づかされた時です。

保護者の方々にお願いしたい事

ハンガリーに来てもう早一年にな

ろうとしているにもかかわらず、私はハンガリー語が全く話せません。挨拶をするのが精一杯です。私の周りが英語環境で、ハンガリー語を話す機会がほとんどないからです。たまに勉強しても一週間何もしないでいると完全に忘れてしまっています。母国語の日本語でさえも、ずっと使わずにしていると簡単な漢字が書けなくなることがあります。補習校に通っている多くの子供たちと同じ境遇にあたるのではないのでしょうか？

ハンガリーで日本語の環境をつくるというのは難しいという事は十分理解しています。日頃、漢字や教科書を読ませる事も勿論大切だとは思いますが、一冊の物語の本でも借りて、一日五分の日本語での会話でも、強制ではなく、毎日の生活の中に何気なく「身近に日本語がある」という環境を作って頂ければと思います。

二学期以降、子供達とやりたいこと

子供達が「国語を勉強しなければならぬ」という気持ちから、「国語を勉強したい」と思える授業作りと、一週間に一回の授業の中から、子供達が国語に関心を持てるきっかけを作れたらと思います。

ハンガリーで好きな食べ物など

私は UBORKA SALATA (キュウリのサラダ) にサワークリームを入れて食べるのが大好きです。酢の物にサワークリームを入れることに抵抗があり、嫌いな食べ物の一つだったので、意外においしくて今では大好きです。ハンガリー語を話せない私でも、主人の実家に電話をして「UBORKA SALATA!」とだけ言うってお義母さんに作ってもらいます。そのサラダをもってピクニックに出かけ、ハンガリーの大自然を感じる、まだ慣れない生活のストレスから開放された気分になります。

随 想

お昼が楽しみ、手弁当仲間

竹内 勝則

昨年四月二十日に赴任して一年が経ちました。

来て直ぐに自損事故を起こしたり、シェーンブルン宮殿の庭でリスと挨拶したり、凍ったドナウ川を見ながらマルギッド島を散歩したりと色々ありました。

実は自分で考えても、他人から見ても、「えーっ」と言われる変化がここ半年の間に起こりました。この私が弁当を作り会社で食べるようになったのです。直ぐに音を上げるだろうと思われたのに、何と半年以上続いています。

一年前は会社で弁当を食べているのはNさん一人でした。秋に入った頃

からKさんが時々弁当を作り、Nさんと一緒に食堂で食べるようになりました。一週間に二日とか三日とか無理のないペースで持ってくるようになりました。

NさんもKさんも家族は日本に居るという一人もんなのです。現在会社には日本人の出向者は八名いますが、一人もんはNさん、Kさん、私の三人だけです。

Kさんの話を聞いて、自分にも弁当を作れるかもしれないと少しづつ考えるようになりました。話を聞いてから二ヶ月以上経った十一月頃、私もタッパウェアにご飯を入れて弁当を持ってきました。Nさん、Kさんそして今まで一緒に村のレストランに行っていた人達も皆びっくりしたようです。

言ってみれば、「人はその気になれば、何でもやれるものだ」という程の驚きだったようです。その驚きと同時に、「なあに、一週間も続かな

いさ」と思っていた筈です。

それが一週間、二週間、一ヶ月、二ヶ月となつて、レストラン組は「案外やるじゃん」と私に対する意識が変わつたようです。

そんな私を見ていたレストラン組の中で三十代のIさんが奥さんの作った弁当を持ってくるようになってきました。二月頃だったと思います。もう一人の三十代Sさんも四月から仲間入りしました。二人とも自分では作らないで食べるだけだから、楽なもんです。奥さんに感謝しなくちゃ。一年前にはNさん一人だけだった弁当組が五人になりました。Iさん、Sさんの参加には私の影響があったと思います。それ程私の手弁当は意外で不思議だったようです。

この一年間を振り返ってみますと、赴任した時引越し荷物の大半がレトルト食品でした。カレー、牛丼、ご飯、インスタントラーメン、乾麺、缶詰……。

炊飯器は日本から持ってきたのですが、米は何回研ぐのかさえ知らなかったのですから、それまで自分でご飯など炊いたことはありませんでした。

研いで、水を線の所まで入れて、ふたをしてボタンを押すだけなので、やってみれば簡単なのですが、面倒くさいが先に立ってしまいレトルトやラーメンばかり食べていました。調理などしたことがないんだから台所はびかびかでした。

隣に住むKさんは実にまめな人で、自分で料理を作るという程度ではなく、料理人と言った方が合っています。休日など私が何を食べているのか心配で、しょっちゅうから揚げとかてんぷらとかホウレン草などを作っては差し入れてくれました。これが美味しいので驚きました。

そのうち山のようにあったラーメンやレトルトが少なくなってきました。

夏休みに家族が来た時に、妻に米の研ぎ方やご飯の炊き方、カレーの作り方などを教えてもらいました。なんだ、水入れて押すだけじゃないかとその時よく理解しました。カレーだって、切って、水入れて、カレーの元を入れればできるんだ、これでも理解しました。

家族が帰ってから一ヶ月程後で、「カレーを作った。チャーハンを作った」と電話やメールで連絡したら、「よくやったね。頑張ったね。偉いね」と妻から褒められました。何せ包丁を持って何かを切ったこともなかったのだから、調理ということをしたこと自体が偉いもんだったのです。

会社の仲間達には私がどんなものを食べているのかばれていました。そんな人が昼の弁当を自分で作ってくるなど、驚天動地のことだったと思います。

弁当を作るまでは皆とレストランへ行き、地元のハンガリー料理の日替りメニューを食べていました。メニューから選ぶと毎日同じ料理になってしまおうと思い、何が出てくるかわからない日替りランチを頼んでいました。

日替りランチには、まあ色々な料理が出てきました。トンカツかと思ったら巨大なチーズのフライだった、焼肉かと思ったらレバーだったり、ケーキみたいな形の甘いものなど見たことのない料理がたくさんありました。

何が嫌だったかというと、

1. 全部パサパサしている。塩胡椒だけで醤油ソースの類が無い。

2. 大体ポテトかフライドライスは付いてくるが量が多すぎる。

3. おかずは油っぽいものが多い。

4. とにかく量が多くて、半分食べれば十分。

5. それと、出掛けて食べて戻って来るまでに一時間以上かかり、時間が長すぎる。

日替りメニューも今日は何だろうかと面白がっている間は良かったのですが、どれもこれも油っぽいものが多く、だんだん飽きてきました。「そろそろ飽きてきたなあ」、これが弁当を作ろうと思ったキッカケです。さて、一人ものの弁当の中味を紹介しましょう。性格が出てくるようです。

Kさんの弁当は幕の内弁当みたいにきれいで美味しいのです。いろいろな食材を少しづつ、彩りも考えて作ってきます。これは私には出来ない芸当です。脱帽。

最近は弁当作りに疲れてきたのか、手抜き弁当の時もあります。基本的には気配りの人が作る弁当です。Nさんの弁当は豪快弁当です。

会社ではずいぶん気配りの効いた人なのですが、本来の性格は豪快で面倒くさがりやなのもかもしれないと思わせる弁当です。

例えば、ご飯にうなぎの蒲焼をのせただけ、あるいは焼きそばパンと言つてコッペパンに焼きそばをはさんだもの、ある時はタラコスパゲッティといつてスパゲッティを温めた後でメンタイコ、海苔、ねぎなどをのせたもの、特製マーボ豆腐を作つてきてご飯にかけて食べるなど、Nさんの弁当とは対照的です。

味付けや何かは色々な食材をたくさん用いて細かい芸を使うのですが、見た目にはどかん・どかんという感じの豪快弁当です。

私の弁当はと言うと、その中間ですね。Kさんから「野菜を食べ、野菜を食べ、野菜だ」と言われて、必ず野菜を入れるようにしています。冷凍インゲンの時もあれば、茹でたブロッコリ、茹でたオクラ、炒めたた

まねぎなど必ず野菜を入れています。おかずはホイゴーロー、肉野菜炒め、ソーセージ、豚の焼肉、親子煮こんなどところどころです。ホイゴーローや肉野菜炒めは日曜日にたくさん作つて弁当の二日分に使っています。

五人も居ると食事の会話も弾みます。日本の地元の料理屋の話だったり、バカ話だったり、若い頃の話だったり、仕事以外のことを話題に毎日楽しく弁当を食べています。

私は前日の夜、弁当を作り冷蔵庫に入れておき翌朝取り出して持ってきます。

夜八時頃帰宅してから弁当を作るのはしんどい時もありますが、頑張つて作っています。どうしてかって。お昼の時間が楽しいから。人間楽しいことは何でも出来るんです。皆さんもトライしてみたいかがでしょうか。

創作

海外初旅行

岩井 孝博

えー、二度目のお会いとなります。
旅は道ずれ世は情け、なんてエーこ
とを申しますが、旅は偶でする、よ
く割れる、なんて事も言いますナア。
そのわりにや、旅って字にや、な
んだって人が三人いるんだ。

ま、そんな事言うシトも居ますが、
難しいことは学者さんに任せ、この
節、海外旅行も盛んになりました。

景気がいいのか、どーにもお金の
使い道に困っての事か、いずれにし
ましても、このー、知らない国へ行
って見たいというのは、お迎えの来
る前までには、やってみたいもの
です。

なかでもお年寄りのツアーなんか

は、なかなか楽しそうでいいモンで
す。心ペーの種のドラ息子も、気イ
ーもんだ不良娘も、ま、今じゃ一人
前に育ち、会社も終わり、さてと思
えば、やっぱり外国でしょう。

楽しい中にも、現地へ行ってみま
すと、日本人は鯨を捕り過ぎだとか、
鯨を殺すな、なんて事を聞かされま
す。動物を虐待するなど、言ってる
訳なんですが、なにかこう、解るよ
うで解りません。

そんな話なんざあー、よく知って
るガム公なんか言わせましてエー
と、ってやんだい、こっちや生活だ
い、手メーらなんざ、遊びで、殺し
てんジャねーか。ツて事になるん
です。

例の三人、ガム公、チョコ坊、グ
ミ助の三人も、しょっこりと、四週
間も、エゲレスへ行く事になりました。
た。

なんですかこの、エゲレスって国
は、遠いんですが、身近に感じます。

地球儀を見ましても、日本から、
八・九時間の時差ですから、ほぼ、
ま、地球の反対側にある国。

「おおい、何で郵便ポストは赤い
んだ」

「エゲレスのが赤かったからだ
い」とか。

「じゃ何か、人は右、車は左って
のも、そうなのか」なんてまさかと
思うようなことを言ったつもりが、
「そうだよ」とガム公が言う。グミ
助が、電話のベルな、何でベルか、
知ってるか、ベルが作ったからだ。
蒸気機関車はワット、背広はセービ
ーロードって町で作られた。なんて
グミ助が喋っていると、

「よく知ってんなグミ助」

「そりや、俺だって義務教育グレ
ー出たからな」。

などと、自慢にならない自慢話を
しながらも、成田に着いてみますっ
てーと、シトでイッパイ、ゾロゾロ
と並んで、チンタラ荷物の検査かな

んかあって、

「あらヤダ、全部見られる」

「んな事言ったって、しょうがねーだろチョコ、何ンか不都合な事でもアンのかい」

「ありやしないけど」

「じゃ、いいじゃネーか」

「よかアないわよ」

「なにが」

「若いのしか入ってないから：」

「何が、何ンか、その、若いとまづいのか」

「年そう応だったらさ、どっかで開き直れるもんだけど、変に思われりやしないかい」

「くっくッて、なに笑ってんのよ、ね、ガムちゃん、なんか言ってよ、このグミに」

そのガム公も、下ア向いて笑ってるもんだから、チョコ坊が、

「ッたく、男って皆こうだから、ヤンなっちゃう」

そうしてる間に、検査も終わり、

し行機に乗ります。

窓際にグミ助、通路側には、慣れたガム公、その間にチョコ坊、三人オシナ様のように掛けた。掛けたはいいが、じっとしていられない。何がどうというわけじゃないんですが、そわそわして、じっとしていられない。

やはりなんですネ、嬉しい。それにしましても、あの鉄の塊がふわつと空に浮かぶんですから、初めてン時や、落ちないか・・・なんて心配するモンです。グミ助とチョコ坊も初めてらしく、落ちねエーよなアー、なんてガム公に聞いたりする。

「そんな時やそんな時、設計ミスだから、デー丈夫だよ」なんてガム公がヘンな事を言ったりする。

「なんだよ、その設計ミスってのは、オツかネー事言うなよ」とグミ助がガム公にすがり付いて聞くと、チョコ坊が

「何で、設計ミスで、大丈夫なわ

け」

「自動車の設計ミスで、空ア飛んじやったから」

「なんだい、そらあ・・・」
とか何とか、分けの解らん駄洒落なんか言ってる間に、シートベルトの確認があつて、グイッと機体が動き出す。



ユーツくりと、小窓の景色が変わっていき、緊急用具の使い方が、スピーカーから流れる声に合わせて、ジェスチャーで説明され、さて、いよいよ離陸滑走路に入ると、エンジンの音がいきなり大きくなったかと思うと、ググググッと、後ろから押されるように体が持っていられる。

お、お、勇気が湧いてくる気がしまして、し行機に乗って、これが一番気持ちのいいもんです。

スピードが上がって、離陸した瞬間、何んかこの、ズルット尻から落っこちるんじゃないかと思ってしまうのも、おかしなモンです。

機内を見ますと、いかにも登ってるふうに、前の方が坂上に見える。小窓から見えていた地球の表面がだんだんと小さくなって、雲を破って雲海の上。

ここまで来ますってエーと、墜落の心配も、どっかへいっちゃって、機内ではワゴン車が来て、弁当と飲

み物が配られ、皆豪勢だのケチだのと言いながら、ガサゴソ食べ始める。グミ助なんぞは、出てきた酒は只なもんですから、何度もお代わりをし

「こう、只で酒えー飲ましてくれんだから、ええなあー」

「し行機代に入ってるのよ」

「そうか、飲まなきやそんだな」

なんて、いじましい食い意地も出てくんですが、腹ア一杯になつて、酒が回れば、白川夜船ならぬ、浮世離れの雲の上、あー極楽極楽ってな事で、誰もがトロトロってエー眠る。

雲つてのは、下から見ると、モクモクしてるんですが、上から見ても、同じなんで、新しいものでも見つけた気になるモンです。

目エーつむって、ウトウトして、この間に、日付変更があったんですが、お三人気付きません。と、グミ助がいきなり、ガバッーと起きて、

「なんだいあの音あー」とガム公を起こすと、雷の音だって平気でしたんですが、チョコ坊が、落ちないかいなんて言って

一緒になって小窓を覗いて心配するもんだから、グミ助が、

「チョコ坊、あんな、落ちるってーのは、上から下にだろ、俺たちや今、上にいる、だからよ、言うんなら、昇ってこネーかって、心ペえーしろよ。で、ガム兄ィー、こねーよな」

なんて、自分もビビッてる。

ガム公はガム公で、ああ、とか何とか言って、ばかばかしくって話し相手になってない。

「わ、なんだありや」

いきなりグミ助が小窓に顔を貼り付けています。

「どうしたのよ、また」

なアーンとなく不安なチョコ坊も、小窓に寄って行きます。

「見てろ、見てろよ……くるぞ……」

ほら来た。見たかチョコ坊」

「アア、見たよ。ネプタだね、ありやさ」

「何騒いでんだ、二人して」

「ガム兄ィ、青森のネプタ、見たことあんだろ」

「ある」

「あれやってんだ、雲が」

ガム公が小窓から見てますってエーと、眼下の雲がいきなり、パパッパパッつと、蛍光灯に電気のスイッチを入れた時のように光って、ゴロゴロ。

し行機慣れのガム公も、さすがに、これには驚きました。

そうこうしている間に、北極回りの直行便は、やがてスカンジナビアの上空に指しかかり、いよいよエゲレスです。

着陸の音が、ブンと体にしたきり、スーっと景色が見えたんですが、ここでききなり乗客が拍手した。

「何で、手エー叩くんのだ」

「そらアーおめエー、設計ミスが、ちゃんと来たんだ、アア良かったって言う拍手だ」

「ネネ、ちよつと、時計見てよ、四時間で来たの、日本から」

いきなりチョコ坊が言ったかと思うてエーと、今度はグミ助が「うわー、なんだいこりや、仮装行列か」

そりや、まあメルテンポット、人種の坩堝といわれる国へ行きますと、日本の仮装行列じゃないですが、色々います。

頭からすっぽりと黒い布かなんかを被って、ウルウル目だけ出してる女のシト。

見るだけで、頭が痒イーくなりそうなターバンを巻いて、髭モジャのシト。

中アー透けて見えるわけじゃないですが、ネグリジェか天女の羽衣のようなのを着て、見てるこっちがブルツとしそうな女のシト。

カップパじゃあるまいし、つむじに

お皿のような帽子を乗っけてる男のシト。

仮装の遊びか、お祭り騒ぎと、思っってしまうのも、いやはや、世間知らずの海外発旅行。

お後がよろしいようで……。さて、一服終わってアラドッコイ。



【第一回ソフトボール大会】

運動部理事 伊藤 幸広

五月八日、日曜日。前夜の雨により濡れたグラウンドと、前日とは打って変わった寒さに、少しの不安を残しつつも、二〇〇五年第一回ソフトボール大会は開催された。

朝五時半の時点で雨は降り止んでいたものの、グラウンド状態が心配で、六時半頃直接会場の様子を見る事にした。それというのも、以前、日本人の多くが居住するⅡ区が大雨で、延期を決定した所、会場周辺には全く雨が降っていなかった、という苦い(?)逸話があるからだ。それ以降、開催決定は必ず、天候とグラウンド状態確認の上、日本人会長と、スポーツ理事の下、判断される事となっている。

さて、約三〇分後の七時。グラウンド担当責任者が会場に到着する。

状態があまり芳しくない中で、彼の一存では使用許可を出せない、と言う。結局、会場総合責任者に許可をもらった事と、伊藤会長の「今現在降っていないのだから。」の一言で、開催決定となる。それでも、急激な冷え込みだった為、体への更なる負担が心配され、いつにも増して『大きな事故、怪我の無い様に』が最大目標となった。

ところで、ソフトボール大会といえば、やはり補習校チームの活躍ではないだろうか。毎回、大人顔負けのプレーを見せてくれる子供たち。子供も、大人も、お互いに『負けまい』と真剣勝負をするのは、なかなか普段の生活では持ち得ない、素晴らしいチャンスであり、ソフトボール大会の一つの醍醐味と言えるだろう。今回から、新たに日本人学校チームとなった旧補習校チーム、第一試合サンヨーチームと、第二試合アルパインチームと好戦した。

第一試合は惜しくも負けたが、先発投手、栗田晃孝君の元気に、サンヨーチームは圧倒された様だ。前回対戦時は、一〇点以上の差だったと記憶しているが、今回は、わずか六点差。ちなみに、サンヨーチームは第二回戦、今回第二位の伊藤忠グループと対戦。八対八と、同点だったものの、代表者一発ジャンケン勝負で、惜しくも敗退している。それを考えると、日本人学校チーム、大健闘である。

第二試合。アルパインチームは、子供ピッチャーたちの思いの外速い球と、仲川先生の打球に押され、八対七。日本人学校チームの勝利である。守備、代打にも回られた戸田理事長に見守られるように、チーム一丸、和気あいあいとプレーする様子が、とても印象的だった。今回日本人学校チームは、補習校時代の仲間、アメリカンスクールに通う子供たちも、同じチームで参加し、補習校の

無くなった後、頻繁に会う事が出来なくなってしまう子供たちの、貴重な交流の場となったようだ。

なお、今大会の結果は次の通り。

第一位 商工会 B チーム

第二位 伊藤忠チーム

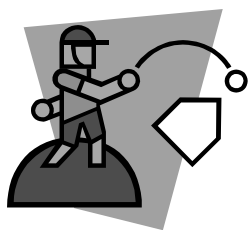
第三位 商工会 A チーム

最高殊勲賞 奥野夫人（商工会 B チーム）

最多ホームラン賞

本 裕和氏（デンソー A チーム）

今回のソフトボール大会成功への、皆様の貢献に感謝すると共に、次回はまだもう少し暖かくなってくれる事を、ただ願うばかりである。



ハンガリーのランニング事情

盛田 常夫

日本に比べて、ハンガリーのランニング人口は多くありません。その理由は、いくつかあります。

晩秋になると、もう寒くなり、冬の間は屋外のランニングができなくなります。気候以外に、たとえばブダペストの町は、ランニング練習に適していません。車の往来が激しいし、排ガスの状態も悪いです。唯一、マルギット島がランニングに適している場所になりますが、島へのアクセスが限られていることや、コースが狭いことが難点です。

私も以前はマルギット島を走っていました。今はフィットネススクラブのランニングマシンを走るだけです。いろいろなトレーニング・マシーンが常備されているし、プールや温泉があるのが魅力です。私の場

合、大会が近づいても、屋外で走ることはなく、ぶっつけ本番で屋外を走ります。屋外のアスファルトに比べ、マシンの方が脚や膝を痛めないことも、メリットです。

ヨーロッパのフィットネススクラブに設置されているランニングマシンは良く出来ています。日本のクラブにあるものより、余程高級なマシンが設置されています。マシンの利点は自分でペースを設定でき、機械がペースメーカーになってくれることです。

マシン上で走ると屋外で走るのでは、スピードに違いが出てくるのではないかと注意深く観察してみたのですが、屋外の記録とマシン上の記録は、ほとんど変わりません。ということは、レースではマシン上のペースを守るように走れば良いのです。幸い、ブダペストのロードレースでは、1キロ毎に距離が表示されているので、容易にペースを確

認することができます。日本の場合は、5キロごとの表示が一般的で、1キロごとの表示を行っている大会はほとんどないと思います。

ランニング人口が少ないために、ハンガリー長距離走のレベルは高くありません。国際的に知られた選手もいません。どの大会にも、素人が気楽に参加できます。各大会では、スタート地点でエリート選手が最前列に立ちますが、国際マラソン大会で数十名程度、後の大会は十名程度です。これ以外の参加者は、素人の走り手。いろいろなスポーツをやっている選手などが、体力作りの一環で参加しています。日本のように、マラソン・オタクのような人はいません。面白半分に、いろいろな衣装を纏った人も参加しています。ほとんど歩いているような人も含めて。人気がある大会は、四月初めの一二キロ走。これが一年の最初の大会。これには三〜四千人ほど参加します。

五月にはブダ丘陵のハーフマラソンとリレー。高低差が二百米もあるもので、参加者は千人程度。六月は恒例の国会周辺を回るマラソンリレー。一番人気があり、全国から五千人ほど参加します。七・八月には大会がなく、九月に国際ハーフマラソン、十月に国際マラソン大会で、ブダペストのランニング大会は終わります。

私の場合、距離はハーフマラソンまで。後はリレーのチームを組んで楽しんでいきます。フルマラソンのトレーニングに入ると、他の趣味に時間が割けなくなるので、今のところ参加しようという気にはなれません。

K&Hマラソンリレー結果

第一二回K&Hマラソンリレー大会が、六月四日開催されました。今回から新たにハーフマラソンリレーが導入され、女子チームはここにエントリーしました。ジュニアやシニアのチームを含め、八百を超えるチ

ームが国会周辺のコースを競争しました。

今年の結果は、以下の通りです。

男子一般の部（四五〇チーム）

日洪混合チームA（チーム盛田）
第一八位 二時間五十一分五一秒
日洪混合チームB（チーム村上）
第八五位 三時間一四分五八秒

女子一般ハーフの部（三六チーム）

日洪混合チームC（チーム浅野）
第一四位 一時間五十五分六秒
日洪混合チームD（チーム藤本）
第三五位 二時間一九分二二秒



「ドナウ通信第 64 号」（2005 年夏季号）

発行者 ハンガリー日本人会

発行年月日 2005 年 7 月 15 日

発行代表者 伊藤 和矢

編集責任者 盛田 常夫

表紙デザイン さくらデザイン (Inner Design Bt.)

1021 Budapest, Bogár utca 7

写真・裏表紙デザイン Kármán Studio Bt.

日本人会事務局 連絡先

Magyarországi Japánok Szervezete

TEL/FAX: +(36-1)373-0400

1054 Budapest, Zoltán u.13

P.O.Box: 638 H-1365

E-mail: nihonjinkai@nihonjin.axelero.net

ドナウ通信編集部

TEL/FAX: +(36-1)361-4469

E-mail: morita@tateyamahu